

サンフロント21 懇話会

〒410 沼津市魚町1番地
-8560 サンフロント5F
静岡新聞社・静岡放送
東部総局内
事務局
TEL 055・962・6520

2012.8.28 No.93

2012年度総会

5月29日/みしまプラザホテル

テーマは広域行政、ファルマバレープロジェクトの推進支援、
コンベンション機能の多角化、富士山周辺の観光連携の促進の4つ。
東部から静岡県の注目度高めよう。

川勝知事が記念講演、 「新東名開通が開いた新時代」を語る



「サンフロント21懇話会」（代表幹事・岡野光喜スルガ銀行社長）は5月29日、三島市のみしまプラザホテルで2012年度総会を開いた。会員の企業経営者や市長・町長、県議ら約150人が出席し、広域行政やファルマバレープロジェクトの推進支援などを柱とした本年度の活動方針案を承認した。川勝平太知事が「新東名開通1カ月—内陸フロンティアの展望」と題して記念講演を行った。

主催者を代表して松井純静岡新聞社・静岡放送社長は「懇話会が提案したキラメッセぬまづの発展形、県東部コンベンションセンターが形になりつつある。皆さんの意見を経済発展につなげ、東部から静岡県の注目度を高めたい」とあいさつした。懇話会幹事

の峰田武佐野美術館理事長は「東部を取り巻く課題はまだ多い。懇話会の機能を発揮して活躍の場を広げよう」と力を込めた。

活動方針案を説明した井口賢明運営委員長は、都市間競争に勝つための広域的視点や富士山、伊豆半島の地域資源としての重要性を強調した。

2012年度の活動方針は、広域行政の推進支援▽ファルマバレープロジェクトの推進支援▽コンベンション機能の多角化促進▽富士山周辺の観光連携の促進—の4つ。懇話会は今後、これらのテーマに沿って提言や研究を行うとともに伊豆、東部、富士の3地区で分科会を開催する。

主催者代表あいさつ

静岡新聞社・静岡放送社長 松井 純



サンフロント21懇話会は今年で設立18年目を迎えました。振り返ってみますと、皆様方の絶大なる協力のもとに活動を続けることができ、東部の活性化にいろいろな意味で貢献できたのではないのでしょうか。

我々の提案から県が取り上げたキラメッセぬまづは所期の役割を終え、県東部コンベンションセンターに生まれ変わろうとしています。東部の新しい顔となることを期待しています。また伊豆に動物の愛護施設をつくろうという提言もあります。一方で言いにくいことですが、伊豆の合併問題は進んでおりません。理由はともあれ、

何とかしていかなければと思っています。

もう一つ気になるのは静岡県の人口が全国平均を上回って減少傾向にあることです。関東圏にごく近いし、気候温暖、食べ物はうまい。こんないい土地なのに不思議でもあります。全国から注目を集めるような県にしていかなければなりません。手始めは東部から。東部の活性化、また経済が上向くように皆さまともども頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願いします

懇話会代表あいさつ

懇話会幹事、佐野美術館理事長 峰田 武



岡野代表幹事が出席できないため、私が本日のごあいさつと進行を務めさせていただきます。サンフロント21懇話会は提案、提言に重点を置き、東部地域の活性化に活躍することを趣旨として発足しました。現在は320の団体、行政、企業の皆さんに参加いただいております。

県東部が合併をはじめなかなか一つにならないとご意見をいただいておりますが、今注目しているのは昨年12月に地域活性化総合特区の指定を受けましたファルマバレープロジェクトの推進です。そしてもう一つは県東部のグランドデザインを描くことであり、サン

フロント21懇話会が全面的にこれを支援、または応援していくことが重要になっています。

サンフロント21懇話会は伊豆、東部一円を対象としているのでいろいろな意見、ニーズが出て来ます。そうした課題に対してもサンフロントの機能・役割が発揮され、活躍の場が広がっていくことを期待しております。今後とも皆さまのご協力をお願い申し上げます。

2012年度 活動方針

総会で承認された2012年度の活動方針は、「広域行政の推進支援」「ファルマバレープロジェクトの推進支援」「コンベンション機能の多角化促進」「富士山周辺の観光連携の促進」の4テーマに決まりました。各テーマの概要は次の通りです。

◆◆◆ 広域行政の推進支援 ◆◆◆

東日本大震災の教訓の一つに市町の行政運営に広域的視点の重要性が挙げられる。特に住民の安全・安心を支える防災をはじめ、医療、福祉は市町間で情報の共有化が必要であり、具体的な取り組みに向けた共通認識を醸成する。静岡経済同友会東部協議会の呼び掛けに応じた県東部10市町（沼津、三島、御殿場、裾野、伊豆の国、伊豆市、小山、長泉、清水、函南町）のグランドデザイン策定作業にも商工会議所、商工会など地元経済団体との連携を継続し、広域行政に対する住民への啓蒙を図る。

◆■◆ ファルマバレープロジェクトの推進支援 ◆■◆

県が昨年度10年計画でスタートさせたファルマバレープロジェクト第3次戦略計画を踏まえ研究開発の促進、健康産業の振興・集積に向け支援を継続する。ものづくり（医療健康産業を中心とした産業構造への転換）、まちづくり（健康サービスの充実で高次都市機能が集積し、快適で魅力ある都市圏の形成）などに向け地域産業活性化を支援する。昨年6月ファルマバレープロジェクトの一環として県に提言し、伊豆地区分科会で取り上げた人と動物の共生拠点「動物の愛護と福祉のセンター（仮称）構想」を交流人口拡大や新産業創出の可能性を探り、実現に向け支援する。

◆■◆ コンベンション機能の多角化促進 ◆■◆

県と沼津市がJR沼津駅北口に建設する県東部コンベンションセンターは2014年夏の全面開業に向け整備事業が本格化する。会議場（メイン会議室収容人数約1100人）、展示イベント施設（約3900平方メートル）、ホテル（11階建て、150室）を備える。コンベンション施設は経済波及効果だけでなく、都市のイメージアップ、ホスピタリティの醸成など社会的に波及効果が大きい。アフターコンベンションも含め、多様な事業性を検討し、人、モノがグローバルに行き交う「交流の時代」の象徴として県東部の新たな「顔」となるよう支援する。

◆■◆ 富士山周辺の観光連携の促進 ◆■◆

2013年の富士山世界文化遺産登録、2015年の伊豆半島の世界ジオパーク（貴重な地形や地質を楽しむ「大地の公園」）認定が実現すれば、県東部に世界が認めた新たな価値が生まれる。富士山や伊豆半島は県東部の一体感を養うには願ってもない地域資源であり、特に子供たちがふるさとへの愛着を抱けるよう周知活動に取り組む。県が2011年度に策定した新東名や東駿河湾環状道路などの交通ネットワークビジョンをさらなる観光交流の促進に、どうつなげるか模索する。

記念講演

「新東名開通1カ月— 内陸フロンティアの展望」

静岡県知事

川 勝 平 太 氏



人気のネオパーサ、利用は沼津が1番

新東名が4月14日に開通して1カ月半が経ちました。もともとは初夏開通でしたが、前倒しで開通が実現しました。

開通から1カ月の利用者は大変多い。たくさんの方が利用しています。通常東名高速の場合は平日で7万台強、休日になると8万台に増える。しかしながら東名の適正な1日平均の通行台数は

4万台ですから2倍余りの車が走り、渋滞に巻き込まれることが多かった。新東名ができて渋滞が解消されたのです。

新東名には「ネオパーサ」というのがあります。ネオは新しいという意味、パーはPA（パーキングエリア）、サはSA（サービスエリア）を表します。この新しいPA・SA、ネオパーサという所に来場してくださる方が何とこの1カ月で590万人余りを記録しました。ざっと600万人、これはものすごい数字です。その中で一番たくさんの

方が訪れているのはどこかという沼津です。600万人のうち上り線で108万、下り線で107万。他はみな100万を切っています。中部がちょっと落ちて80万、さらに落ちて浜松という状況です。沼津が一番、東部が一番。ネオパーサの人気は東高西低ということで、大いに自信を持っていただきたい。

人気の要因は何でしょうか。いうまでもなく新東名は走りやすい、景色がいい。そしてPA、SAそれぞれの建物にテーマ性がある。例えば森町は宿場町らしくと地域の特性が生かされている。さらにPA、SAでは地域の産物、特に食材を販売している。加工品として販売され、味わうこともできる。静岡県が多様な自然が生む、その自然の恵みを体感できる場所になっているからです。

食材の王国を「食の都」に

本県には天城山や富士山、南アルプスなどが作り上げる水の文化があります。水は生命の源ですから、こちらだとワサビですとか、西に行けば果物であるとか、県全体でいえばお茶ですとかがあります。おいしいお酒もそうです。山田錦を上回るといって酒造好適米「誉富士」もできています。いろいろありますが、こうした農産物は167種類。沼津のような海に恵まれているところは豊饒（ほうじょう）の海から揚がる海産物を入れると219にも及び、これは日本一です。食材の王国といってもいい。こうした食材の王国としてのアイデンティティーをしっかりと持つことは、その背景に食の恵みである多様な自然を我々は擁していることに思いをはせることでもあります。言ってみれば日本の縮図として本県がある。これを認識すべき時に来ていると思います。

日本は災害列島といわれますが、この近辺はフィリピン海プレート、太平洋プレート、ユーラシアプレートが複雑にひしめき、活動を始めるとその影響で富士山も噴火しかねないともいわれています。言い方を変えればこれほどのパワースポットはない。そのパワーの一部が多様な自然となり、かつ多様な食材に結びついている。こうしたことも踏まえて食材の王国としてのアイデンティティーを持ちたい。そしてこれを食の都として作り上げていきたいと思っています。

新東名が開いた東海道新時代

今、都と申し上げましたが、都というのは日本の中心ということです。私は東海道新時代が新東名で開けたと考えています。東海道といいますが、お江戸日本橋から京都に至る53次のイメージがありますが、そもそも東海道というのは奈良、平安時代の律令制で5畿7道が定められた時に初めて生まれた言葉です。5畿とは大和、山城、摂津、河内、和泉であり、そこから東に東海、東山、北陸が、西には山陰、山陽、西海、南海の計7道が出ていた。従ってこちらに来ることを東下りといい、こちらは都から見れば西の東の辺境でした。その後、江戸幕府を開いた徳川家康公は改めて5街道を定め、一番大事な東海道の出発点をお江戸日本橋とし、東から西へ下って行く。その流れを受けて東京に行くのを上り、東京から西へ行くのを下りというようになりました。どちらにしてもこちら（静岡県）はかつては西から数えての東の辺境、江戸時代以降は東から見ての西の辺境ととらえられてきました。

しかし三ヶ日から御殿場まで162^{キロ}が一挙開通した新東名をご覧ください。今後は西は愛知の方へ、東は神奈川、東京へと道路が延びていきます。ですからここ富士の麓の静岡県、ふじのくにが日本の中心になるのです。新東名はまさにそのためのインフラであり、東海道新時代ということになります。

動き出した内陸フロンティア構想

3・11、あの震災は東日本以外でどこにもとも起こり得たか。三陸海岸を襲った津波はリアス式海岸であるがゆえに通常の高さよりも遥（はる）かに高いものになりました。そのリアス式海岸をわれわれは持っている。伊豆半島です。それから津波は北上川など河川を遡上（そじょう）して内陸部まで深く入り込みました。本県は狩野川をはじめ富士川、安倍川、大井川、天竜川と大河を擁している。そして安全をうたわれていた福島第一原発の事故。県内には日本で一番危険なところに立つといわれる浜岡原発があります。あまり自慢していいものではありませんが、東日本大震災に匹敵する規模となる条件がそろっている。

1976年に東海地震説が指摘されて以降、国は大規模地震対策特別措置法を制定し、地震防災対策特別強化地域の指定を受けました。以来我々は1カ月に1回の割合で何らかの訓練を行い、いつ起きるか分からない災害に備えているわけです。

歴史的に何度も津波の被害に遭っている東北地方には「津波てんでんこ」という言葉が伝わっています。何を置いてもすぐに逃げなさいということです。だが、「ここには津波が来た、ここより下には住んではいけない」という標識があるにもかかわらず、それを破って住んできた。被災地の方々は「子孫に付けを回してはならない、今度こそ内陸の高台に移ろう」と方針を固めた。復興特区構想です。でも遅々として進まない。家を高台に移すことはできても、学校や買い物、職場、病院、福祉施設はどうするのと課題が続出している。そもそも道はどうなっているのか。ないもの尽くしだから、進出する企業に対して農地制度の規制を緩和し、税制や金融などいろいろな優遇措置を講じた特区を提供しても、企業がなかなか食らいついてこないという状況になっている。

本県の場合はどうでしょうか。大手メーカーのS社は、沿岸部に持つテストコースの内陸移転に向けて動き出しています。そうなれば沿岸部に住んでいる従業員や関連企業も移っていくでしょう。新しいまちができていきます。内陸部は中山間地であり、いわゆる過疎が進行しているところです。そこが逆転して新しい希望の大地、フロンティアになるであろうと思っています。土地の問題は高い不動産を買って所有するのではなく借りればよいと考えます。所有から利用へ、公的などが土地を預かって所有し、また貸しで安心して使ってもらおう。

これまでのような列島改造的な開発は許さない。その代わりこの地域の本当の魅力、回遊式庭園が楽しめるような足し算の地域づくりを目指したい。東日本大震災の悲劇をこのふじのくに、静岡県民が味わうことのないようにしたいと強く思っているからです。

命の道・新東名を夢あるものに

内陸部には豊かな自然がはぐくむ農産物や林産物があります。それらをたまたま新東名のSA、PAで出したら大好評でした。大型連休には280

万人の方が立ち寄られ、買い求めていただきました。おいしくて旬のものをきれいな所でいただける、あるいは持ち帰って家族と楽しむということにいかにも多くの方が魅力を感じているか、あこがれを持つかが分かりました。食の安全性に関心が高まる中で、旬のものが味わえるという喜びを共有した証しと受け止めてもいいでしょう。

新東名は13のSA、PAのうち12カ所にドクターヘリの発着を想定したヘリポートを備えています。大型連休中の4月29日に急病人がありました。聖隷三方原病院からヘリが10分余りで来て病院に運び、命を取り留めることができたそうです。命の道になっているということです。もちろん東名、国1が沿岸寄りにあるのに対し、新東名は内陸を走っていますから、津波対策としての命の道であることはいうまでもありません。

この命の道を夢のあるものにしたい。それは先ほども触れましたが食材の王国、食の都です。食の都には食の大路がないとさまにならない。都大路というじゃありませんか。162^{キロ}の新東名は北大路です。南にある東名は南大路ということになります。しかしこれを縦に結んでいないと有効なものにはなりません。

開通前の昨年12月、中日本高速道路の金子社長さんと対談しました。地理的には私の方がはるかに詳しい。中日本のアドバイザーをしていますし、静岡文化芸術大学の学長をしていた時には許可を得て学生を連れ新東名の建設現場を見学している。そこで対談の中で、東名と新東名の周遊券を作ったらどうかと提案しました。そうしたら「やります」とおっしゃる。即断即決です。乗り降り自由の周遊券として9月末まで販売しています。

もう一つ、東名には富士川楽座があり、眼下に富士川を見て富士山を仰ぎ見るビューポイントを備えているため非常にはやっている。しかし新東名にはそういう所がない。そう申し上げましたら「それもいい考えだ」とおっしゃった。大手タイヤメーカー、ゴム会社の出身ですからさすがに柔軟性があるなと思いました。

北と南にある大路を結ぶ縦の道は、西からいうと三ヶ日、引佐を経て鳳来峡、飯田に行く三遠南信道。今、愛知県の鳳来峡まで通じました。引佐から鳳来峡まで14^{キロ}、前倒しでやってくれました。これが西大路になります。中部横断道は文字通り中部にありますから中大路です。中間には御前崎

から東名を経て国道1号と、その間には空港を含むルートで新東名に至る道がある。牧之原台地のお茶畑が広がっているところですから、ここはお茶小路とでも名付けましょう。東大路はこちらからずっと南に下田へ行く伊豆縦貫というわけです。

大路には番地をふっていく。1丁目からでも1番地からでもいいですが、北大路の1丁目1番地では何が獲れる、東大路では、などとしていけばいい。新東名はこの後愛知県側ができ、神奈川県側はゆっくり目にということになりますので、先に付けた方が勝ちです。

伊豆西海岸は富士ビューロード

食の都の東大路は東駿河湾環状道路から伊豆縦貫に入るルートがだいぶできてきて、伊豆縦貫の難所とされる下田―河津ルートの2期工事、事業化が決定しました。これも前倒しです。国道135号、136号は海岸にへばりついている場所が多い。135号は相模湾が非常にきれいに見える。ミカンの花咲く丘、サマーオレンジの産地でもあり、オレンジ道路と呼びたい。石廊崎から回って松崎、西伊豆に出ると136号。「富士山の日」の2月23日、松崎町の斎藤町長さんは「世界でいちばん富士山がきれいに見える町」を宣言された。美しいのは棚田だけじゃない、ここから見る富士山が美しいんだということ。

しかし富士山の眺望自慢を始めたらきりが無い。沼津から見る富士山も、三島から見る富士山もきれいです。恋人岬からの富士山も。あるいは十国峠から見るのがいいとか、河口湖です、山中湖ですとそれぞれに言っている。ここからが一番だと、いやこここそが一番だと。それこそ自分の家のトイレから見える富士山が世界一だと思っている人もいます。

考えてみてください。どこも一番を許すのが富士山のいいところです。全部許してくれる多様性が富士山にはある。それほど大きな存在が富士山なのです。伊豆の西海岸、136号は海越しの富士山がきれいな富士ビュー道路です。日本で一番深い駿河湾越しに見ることができる富士ビュー道路に休憩施設などを組み込んで景色を楽しみ、おいしいものを頂戴していただき、「なんて素晴らしいところか」という思い出を持ち帰っていただく。春夏秋冬それぞれの季節に、とこう思っていると

ころです。

高台移転目指す内浦重須地区を視察

内陸は新東名周辺ではありません。まちとして内陸移転の動きを起こしたのは沼津市の内浦重須地区の人たちです。110世帯約440人が住み、80%の方が上（内陸高台）に移りたいとおっしゃっている。

行ってみました。高台には中学校がありました。長井崎中です。眺めのいいところですから、変なおっさんがうろうろしていると見つけてくれ、私と一緒に全校集会をやりました。何をしに来たかを説明すると110人ほどの生徒は目を輝かせ、自分たちにとっても大事なことからいろいろな質問を受けました。私は生徒に高台移転の意向を聞いてみました。7割弱が移転を望み、移りたくないは約1割。未定が1割でした。同じ内浦でもどちらかといえば内陸側に住んでいる生徒もいるし、父母がまだ決めていない家庭もある。でも生徒たちはこの問題を真剣に考えていることがよく分かりました。

高台に移転するためには防災集団移転促進事業として国交省に認めてもらう必要がありますので、その高台にも行ってみました。海拔40～50mの丘が広がり、下には変化に富んだ海岸線が眺望できて愛鷹山の向こうに富士山が望める。イタリア南部に神秘の青、地中海の真珠といわれるカプリ島がありますが、そこに勝るほど美しい所だと思いました。70mほどのミカン畑があり、所有者の方は譲ってもいいとおっしゃっている。7mあれば賄えるでしょう。土地は共同所有で貸せばいい。今住んでいる内浦よりも広い面積が確保できる。現状のミカン運搬道を広げて真ん中を通す。フロントガーデンを設け、家があってバックヤードを備える。その向こうに海が見られるというふうにすると、それだけで夢のようなガーデンシティになります。

庭園都市を誤って田園都市と訳す

勝手なことを言っているようでもありますが、英国が誇るガーデンシティの背景にあるのは江戸のまちです。幕末・維新时期に日本に赴任した英国の代表オールコックが江戸のまちを見て、大都

市なのになぜ煙突もなく、公害もなく、花にあふれているんだと目を見張り、これがガーデンシティー、大いなる田舎の都市だと称賛した。そして「ガーデンシティー フォー トモロウ」という本が書かれ、英国では実践するまちを作った。道路には歩道や並木を設け、フロントガーデンを配置、そこに建つ家々はリンゴを植えたり、バラを栽培したりしてきれいな庭を持つ。誰でも見ることができる所ですから美観や景観の維持に努めてきた。

日本ではガーデンシティー、庭園都市を間違っ
て田園都市と訳してしまいました。渋沢栄一さんが英国をまねて作ったのが田園調布です。ところが相続ごとにだんだん小さくなって今は見る影もありません。英国の方はといえ100年経っても全然乱れていない。なぜなら土地が全体の機構によって管理されているからです。こういう形で作れば見物客が引きも切らない所になるだろうと思います。

安全を保証するまちづくり

もう一つのケースは下田。防災拠点となる市役所を高台の敷根公園に移す計画が進行中です。素晴らしい公園の隣接地に広がる別荘は空き家が徐々に増え、そこに下田のまちの人が住み始めている。そして駅と公園の間には伊豆縦貫自動車の降り口ができます。下田の魅力は日米友好の黒船祭が70回近い歴史を重ね、カーターさんも現職の大統領の時に訪れている。

高台移転を促したのは3月末に内閣府が南海トラフ巨大地震を想定してはじき出した予想される津波高ですが、石井市長さん（当時）からは公園の機能を損なうことなく建設できるという説明を直々にうかがい、それは可能だと受け止めています。

住民主導の内浦重須にしても、行政主導の下田にしても緑豊かな中に景観を良くし、かつ人々の安心を保証できるような新しいまちづくりの提案がされています。私はネットワークを構築するためには道路が大事だと考えています。その道路は自分たちの風景を入れ込んだ名前にしようということです。

富士山はかけがえのない文化的景観

伊豆半島はジオパークになります。今年中、あるいは1両年のうちに日本ジオパーク委員会に認定されます。そして韮山の反射炉が世界文化遺産の候補になっているので、富士山の次に群馬県の富岡製糸場、その次に世界文化遺産になります。そして世界ジオパークも実現します。そうなればここの自然自体が素晴らしい、世界が認めた自然ということになるのです。

その美しさは富士山と一体の中で見ると、韓国の濟州島と比べることができます。面積は伊豆半島より大きく、富士山の麓からを加えればほぼ同規模の島です。この濟州島には漢拏山（ハルラサン）という2000^mには満たないけれど韓国では一番高い山があります。世界自然遺産です。一帯はエコパークをなし、世界ジオパークにもなっています。実際に行ってみると、韓国の人には申し訳ないけれど「この程度か」と思ってしまう。間違いにこちらの方がいい。残念ながら、宣伝や戦略はあちらの方が上ですけど。だが富士山が世界文化遺産になり、伊豆半島が世界ジオパークになると、本家本元ここにありで濟州島を圧倒するものになるでしょう。

世界遺産で文化的景観の第1号となったのはニュージーランド北島のトンガリロです。2000^mほどの山ですが、富士山によく似た稜線を持っています。初めは山がきれいだから自然遺産として登録されましたが、もともと原住民であるマオリ族の信仰の対象となっていて聖なる山、神の山として大切にされてきた山です。後から入植してきた白人たちもそれを冒すことはできないので文化遺産に登録替えをした。その時に文化的景観というネーミングが生まれました。

富士山は文化的景観と呼ぶにふさわしい。信仰の対象であり、芸術の源泉ですからしっかりと位置付けることができる。では文化的景観とは何か。一言でいえばガーデンです。我々は借景として庭を見ます。富士山を借景にちょっとした庭を造る。向こうには富士山。借景というのは自分が手に入っていないものも庭の一部として見るものです。「いい借景ですね」というじゃありませんか。

ふじのくにを回遊式庭園に

ふじのくにには、東は伊豆半島、箱根、富士山から西は浜名湖に至るまで、さらには南アルプス、そして眼下には遠州灘、駿河湾、相模湾が広がっています。どこもみな借景になる。庭の一部になるのです。

日本の庭というのは山水を模倣する。自然であるかのごとくに造ります。「何か変ね、ちょっと不自然よ」といわれたら価値が下がる。だから自然の中にモデルを造ります。その自然のもっとも典型的なものがここふじのくににあるのですから、それを生かした形で美しい回遊式庭園に仕上げていきたい。

昔の大名庭園の回遊式は歩いて回りましたが、

今は車で回れる回遊式です。東大路から西大路まで、それぞれに櫛(くし)の歯の役目を果たす縦の道路を整えて、地震など災害対策にも使えるようにしておく、内陸部では新しいまちづくり、フロンティアが広がっていく。それによってすぐであろう沿岸都市部はイノベーションと取り組み、緑豊かで安全が確保できるゾーンに変えていく。これらを地域で連携軸を持って造り上げていくのが内陸フロンティアの構想なのです。

フロンティアは新東名周辺に限っているわけではありません。内陸フロンティアを開発する、沿岸都市部を刷新する、そして両者を結ぶという構想です。その中でさしあたって食の都、食の都大路を整え、地域にふさわしいものとしてまいりたいと思っています。

サンフロント21懇話会の会員情報

■新たに入会された方

- | | | |
|--------------|---------|-------|
| ◇(株)落合楼村上 | 代表取締役 | 村上 昇男 |
| ◇富士川まちづくり(株) | 代表取締役社長 | 伊藤 高義 |
| ◇オークラパックス(株) | 代表取締役 | 山本よしみ |

■会員の変更

- | | | | |
|--------------|-------|-----|-------|
| ◇(一社)伊東観光協会 | | | |
| 会長 | 石井 文弥 | → | 柴田 昌彦 |
| ◇(株)杉山鉄工 | | | |
| 代表取締役 | 杉山 壽章 | → | 杉山 雄一 |
| ◇ネットヨタ静岡(株) | | | |
| 代表取締役社長 | 松田 達也 | → | 渡辺 光和 |
| ◇下田市 | | | |
| 市長 | 石井 直樹 | → | 楠山 俊介 |
| ◇沼津信用金庫 | | | |
| 会長 諏訪部恭一 | → | 理事長 | 堀田 大洋 |
| ◇野村証券(株)沼津支店 | | | |
| 支店長 | 矢野 公司 | → | 日比野勇志 |

■肩書の変更

- | | | | |
|------------------|---|-------------|--|
| ◇日本製紙(株) | | | |
| 山田 英継 | | | |
| 常務取締役富士工場長 | → | 専務取締役富士工場長 | |
| ◇荻田 勝雄 | | | |
| 富士急伊豆タクシー代表取締役会長 | → | 富士急シティバス相談役 | |